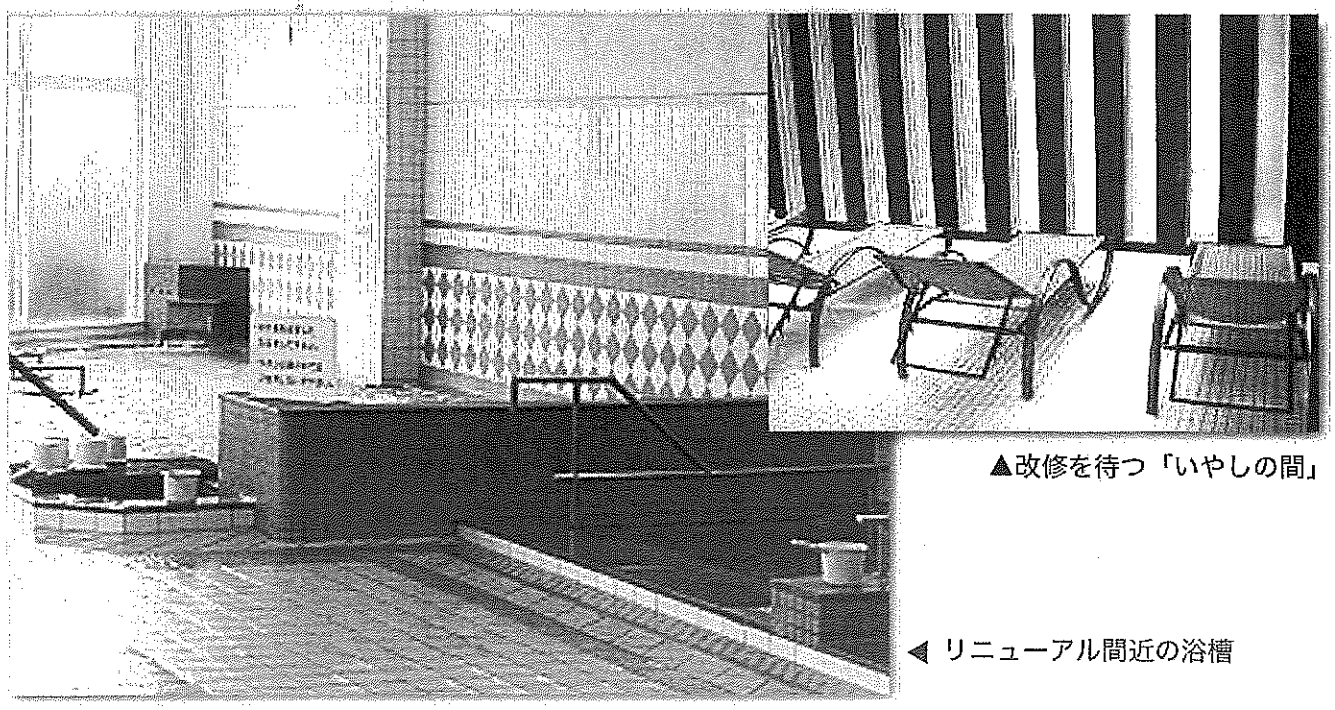
くるはら

2008(平成20)年9月19日
第 43 号
発行　来原地区コミュニティづくり連絡協議会
編集　広　報　部

土用夜市

地域の財産

10年目のリニューアル



▲改修を待つ「いやしの間」

◀ リニューアル間近の浴槽

時の流れに感じる

来原コ連協会長
平野 弘則

この夏は例年に増して暑さの厳しい雨の少ない毎日が続きましたが、地域の皆様お元気のことと拝察申し上げます。

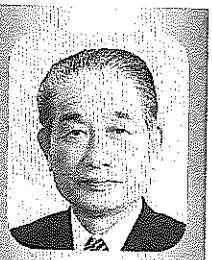
地域温暖化、自然破壊が叫ばれていますが、このほか今年は真に温暖化の影響を受けている感がします。

さて来原コ連協機関紙「くるはら」が昭和53年9月27日の創刊号発行以来30年目を迎えました。その間昭和60年1月発行から平成4年9月の11号発行まで7年余休刊しましたが、再刊された平成4年9月1日11号には〝新しいまちづくりはそこに住む人々の肉体的、精神的、物質的な負担が非常に多く、又、ボランティアによる奉仕活動が地域の機能集団として、地域課題を解決していくため全地域の皆さんのご理解とご協力をお願いします〟とあります。

正に地域活動はお互いに何事にも関心をもち、自分に出来ることは積極的に参加し、又、それぞれの問題点はお互いの共通課題とし心身共に、明るく元気に多くの人々と接し、毎日の生活を送ることも、地域活動の一環とし大切なことと痛切に感じます。

機関紙〝くるはら〟は創刊号以来、ささやかでもその時、その年の出来事を一頁一頁に地域の歴史として残す役目をも果していることをも感じました。

これからもより良い来原の郷、温もりのある地域づくり等、地域活動の基本的な考え方、特に地方財政が厳しければ厳しい程、住民自治活動、地域振興会活動による活性化の重要性と認識し併せ諸先輩から引き継いだ地域の歴史を機関紙で残すことの大切さも思っています。これからも皆様方のご協力とご指導をお願い致します。



永年のご支援に感謝申し上げます

前安芸高田市長
児玉 更太郎

今年4月17日をもって安芸高田市長を退任させていただきました。

昭和55年5月、46才で高宮町長に就任以来町長6期、市長一期、通算28年余勤めさせていただきました。これもひとえに町民、市民の皆様のご支援と心からお礼申し上げます。

特に来原地区の皆様には、来原農協専務理事、高宮町議会議員時代も含めると45年にわたってご厚情にあずかり、お礼の言葉もありません。本当にありがとうございました。

町長時代は、国の経済情勢も好調で、道路、圃場整備、上下水道、学校、公民館などの施設も一定の整備ができました。

市町村合併以後は、地方自治体は合理化をせまられ、厳しい時代に入りました。

このような時代の流れの中で、今からの安芸高田市は、まだ未整備のハード事業の充実を計りながら、少子、高齢化対策、福祉、教育、住民自治活動など、ソフト面の充実に力を入れてゆく時代に入りました。

私が市長退任後の3ヶ月の中の出来事を見ても、25年間独立校として頑張った、高宮高校の募集停止の発表、20年続いたニュージーランド村の休園など、時代の流れの速さ、厳しさを感ぜずにはおれません、誠に残念でなりません。

広島ニュージーランド村については、平成2年7月にオープン、建設の計画から数えると20年にわたって高宮の活性化のために計り知れない貢献をしてくれました。

土地の提供や数々のご協力を賜った原田地区の皆様や関係の皆様に心から感謝申し上げます。私自身も休園については残念で、断腸の思いがします。しかしこれも時代の流れかな、という思いがします。

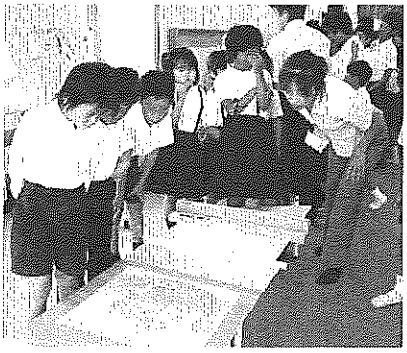
20年間高宮に、希望と活力を与えてくれた、広島ニュージーランド村に心から「ありがとう」のエールを贈りたいと思います。

園内での青空市やレインボーファームの方向についても、今後市としても充分協議していく予定です。

休園後も職員で施設の管理を行いますし、㈱ファーム（広島ニュージーランド村）としても、休園に伴う他の代替の事業も市内で考えておられるようで、期待しています。

来原の良さ

来原小学校長　平畝　力



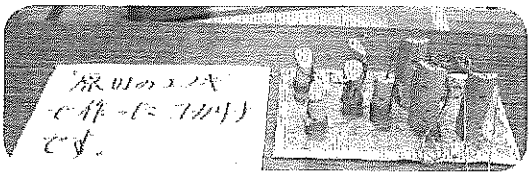
8月5日に、来原コミュニティ連絡協議会の主催で、『平和の灯のつどい』黒坂黒太郎コンサートが行われました。黒坂先生は、世界的に有名なコカリナ奏者で、NHK放送のバックミュージックも多く作られています。また、被爆エノキで作られたコカリナで日本全国はもとより世界各地で平和をうったえてコンサートを行っておられます。

この日、来原小学校の体育館には約百二十人もの多くの参加者に集まっていただきました。そして、心にしみ入るコカリナの演奏と矢口先生の美しい歌声に魅了されました。その中で、台風で折れた『原田のエノキ』の枝で作られたコカリナで演奏をされたり、来原小学校二年生が作った詩をベースに創作してくださった歌なども披露してくださったりし、この来原のための演奏会になったと思います。最後には、被爆エノキで演奏された音色は、自然に身体の中に入ってきて、まさにエノキが何かをうったえているという感じでした。黒坂先生もこのような音色が出るのは、木の精がコカリナの音色をかりて気持ちをうったえているのだと言われました。だから、外国で演奏して、たとえ言葉が分からなくても、この木のうったえる音色は人の心を打つのだと思いました。

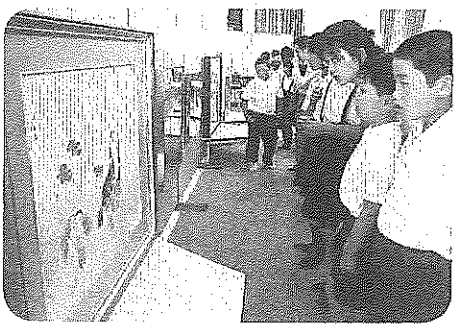
あとで、黒坂先生を囲む会の中で、黒坂先生が来原の良さを次のように話されました。

「本当に、今日のコンサートは良かったです。子どもたちは長い時間、我慢して聴いてくれました。大変落ち着いています。それから、子どもと保護者と祖父母、地域の方が一体となって演奏を聴いて下さった。まさに、私はこのようなコンサートを理想としているのです。私の先生である民俗学者の宮本先生は、このような場で演奏することが価値があると言われています。

また、この来原というところは良いところですね。この来原の地に入って広がる田園風景が長閑で心が落ち着きました。そして、『原田のエノキ』と対面し、何百年も生きてきたすごさを感じました。この『原田のエノキ』のコカリナで吹いた音色を『原田のエノキ』も聴いてくれたと思います。



そして、学校に来ると、校長先生が命の営みを大切にされ、まさに私のうったえているテーマと同じということに驚きました。また、児玉希望さんの母校ということも聞き、子どもたちが希望さんのことを誇りを持っていて、とても良いことだと思いました。それから、校舎を案内していただき、校舎からの眺めがすばらしかったです。上から見て広がる田園風景はまさに絶景といって良い景色でした。こういうところで育った子だから、心豊かで落ち着いているのですね。本当に、今日来原で演奏できて幸せでした。ありがとうございました。」



▲市広報９月号県立美術館所蔵の児玉希望の作品が母校に

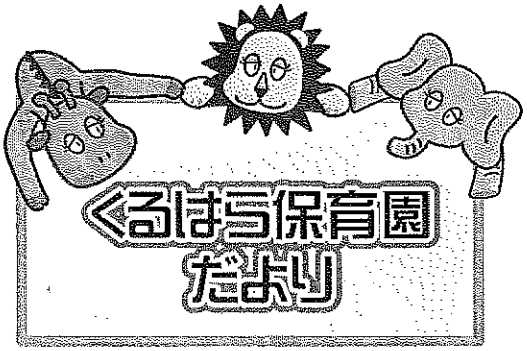
このお話を聞く中で、私が感じていたものと黒坂先生が感じたものと同じものだと分かりました。

私が自宅から出勤してくる時、甲田から峠を上り中国自動車道の下をぬけると、ぱっと視界が開け、なぜかリラックスしゅったりとした気持ちになるのです。それが、黒坂先生の言われた来原の良さを私も直感で感じていたのだなと分かりました。

この良き来原が、私の第二の故郷になって本当に良かったなと思いました。

行事予定（下半期）

9月	
28日	来原小運動会
10月	
4日	くるはら保育園運動会
19日	来原地域敬老会
26日	たかみや大地の祭り
11月	
22日	原　田　胡祭り
23日	来女木　宮祭り
12月	
7日	高宮駅伝
3月	
22日	くるはらミニ駅伝競走大会
下旬	福祉弁当高齢者訪問



なかよし会

なかよし会とは、原田と来女木の老人会の方々が毎月1回保育園に来てくださり、子どもたちにいろんな事を丁寧に教えてくださったり、一緒に活動をしたりして触れ合い楽しむ会です。

5月には、今まで子どもたちが活動し経験してきたことを思い出しながら、育てたいと思う野菜をみんなで話し合い注文しました。

また、畑の土づくりを汗をかきながらも一生懸命取り組み、なかよし会に臨みました。おじいちゃん、おばあちゃんがこられると、早速やさい床づくりをしてくださり、そこへ穴を掘り一緒に植えつけました。

とうもろこし、きゅうり、すいか、なす、オクラ、かぼちゃ、ピーマン、ミニトマトの苗は暑さから少し元気がなくなっていましたが、植えつけた後たっぷりの水をもらい夕方ごろには元気をとりもどしました。そこでの注意は、とうもろこし・ミニトマトは水を少なく、その他は朝晩たっぷりとやるように…ということでした。

6月には、さつまいも植え。

畑が狭いので丸太を持ってきて広げてくださり、子どもたちは土運びをしました。

みんな汗びっしょりでした。

7月は散歩がてら〝しばのは〟をとって来て、しば餅名人のおばあちゃんの指導でしば餅をつくりました。砂糖水を手水に使うことで、しばの葉がはがれやすくなることを教わり、みんなで実感しました。

活動の後は、一緒に遊んでもらったり、お弁当をたべたりして沢山の触れ合いをもらっています。これからもいろいろな計画があり、いっぱいの学びと楽しみが待っています。

おじいちゃん、おばあちゃんの知恵と自然の恵みによる学びは子どもたちにとっても私たち職員にとっても生きる力につながること間違いなしです。これからも、おじいちゃん、おばあちゃん元気で知恵をくださいね。

第30回 来原さんばい祭り 盛会に終る

第30回を迎えた〝来原さんばい祭り〟は5月25日(日曜日)主要スローガン〝お互いのより合う心が福祉の芽ばえ〟〝住民の笑顔で咲かそう福祉の大輪〟を掲げ、ステージ看板も新たに開催されました。

午前の部は、小学校体育館で寺本忠明さん、中崎敬子さんの司会で始まり、来原小学校児童の元気の良い合唱とタスキ姿で凛凛しく会場いっぱいに踊るバイ流し、又、高宮中学校はやし田同好会による模擬はやし田植え等元気の良い児童、生徒に会場の皆さんの拍手に包まれました。

午後は体育館前で国の重要無形民俗文化財指定の〝原田はやし田〟が披露されました。又、当日は浜田新市長も激励に駆けつけていただきました。

田植えに先だち田の神〝さんばい〟さんに豊穣する神事が執り行われた後、綱方に引かれて先導役の後から飾り牛により代掻きが進められ、併せ歌大工、囃し方、早乙女の歌う見事息の合った田植え歌と胴取りによる太鼓とばい捌きのリズムに乗った躍動感あふれる流れるような動きは美しい農村の伝統として心を奪うものがありました。

伝統を守り継承することの重みと、たゆまぬ鍛錬に裏づけされる自信と誇りの大切さも教わりました。

又、午後のステージでは女性部大正琴グループの発表、来女木、原田両子ども神楽同好会の皆さんによる、それぞれの演目の熱演を受けました。

当日JA女性部による食事バザーも大いに賑わい、地域女性部の協力で福祉部が実施した慣例の福祉バザーの売上金は六万千六百円でこれまで通り地域の福祉基金として使わせていただきます。ご協力ありがとうございました。

(H生)

地域に安心感!!消防団活動

地域の皆さんの生命と財産を守る身近な組織として消防団があります。

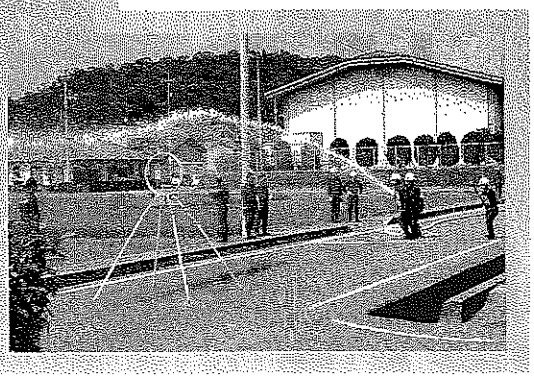
来原地区では第一分団(原田)第二分団(来女木)総勢40名で組織され日頃より、何時でも出動できるよう活動されています。

その活動の一環として、去る7月6日安芸高田市消防団高宮地区慣例の消防団査閲が開催されました。

当日はポンプ操法競技と規律行動の基本とされる分列行進と併せ査閲が実施されました。

競技の結果第二分団(来女木)はポンプ操法の部、分列行進の部共優勝の栄に輝き、又、第一分団(原田)はポンプ操法の部で第三位に入賞され、日頃の活動訓練の成果を表されると共に地域に大きな安心感を与えていただきました。大変ご苦労様でした。

(H・H)



来原平和の灯のつどい

コカリナコンサート

63回目の原爆記念日の前夜に当る8月5日、10回目の「来原平和の灯のつどい」が来原小学校体育館において開催されました。

今年は、文化部長上野一彦さんのお世話で、シンガーソングライターで数々の作詞・作曲をされ、さらに現在はコカリナ奏者として全国的に幅広く活躍されている、黒坂黒太郎さん、矢口周美（かねみ）さんご夫婦をお迎えしました。

来原小学校の先生方の全面的なご協力により準備も整った開会30分前の会場は、まだ、チラホラしか人影が無く心配しましたが、開会間際の午後7時前になると、来原地域の皆さんをはじめ、来原地域外の方々が続々と来場され、改めてコンサートに寄せられた期待の大きさが窺えました。

開会にあたり平野会長より、今日の世界情勢の中で、世界唯一被爆国のヒロシマに生きる自分達が、核や戦争のない平和な世界を願い訴えることの意義と、黒坂さん矢口さんの紹介がありました。

コカリナの澄んだ音色と、矢口さんの朗々とした美しいアルトの歌声に、聴衆はすっかり魅せられました。なかでも台風で折れた「原田のエノキ」の枝の一部と、今も生々しく焦げ目の残っている「原爆エノキ」で作られた二つのコカリナの演奏は、特別天然記念物に指定され、地域の宝として守り育てている人々の心と恒久平和へのヒロシマの強い願いと祈りを伝えるべく蘇った喜びを、高らかに謳いあげているように響いてきました。そしてそれらの音色は、開け放たれた会場から真夏の宵の風に乗り、周囲の大自然を癒すかのように、広がる青田に溶け込み、薄暮の山々に吸い込まれていきました。

ポピュラーソングや、クラシック、新曲を組み合わせた多彩なプログラムで、会場が一体となって歌ったり、ユーモアあふれるトークにどっとわいたりと、終ったあとも余韻が心地よく残る素晴らしい演奏会でした。

今田和哉来原小学校PTA会長から「このようなよいひと時が過ごせるのも、平和なればこそ」とあったように、日本の今の時代に感謝しながらも、一方では地球上で加速しつつある、人間自らが地球や人類を滅ぼすおろかな行為を一時も早くやめなければならない、と強く思いました。

美しく心に残る演奏をしていただきました黒坂さん、矢口さんの今後益々のご発展とご活躍を祈念いたしますとともに、ご尽力いただきました関係者の皆さまに感謝申し上げます。

心震わす平和の音色　～高宮で演奏会・被爆エノキで笛～

▲中国新聞2008(平成20)年8月7日掲載記事より転載

来女木まこと子ども会

育成会長　高杉亜由美

日頃は子ども会活動に対し温かいご支援をいただき、誠にありがとうございます。

今年度の活動行事として、8月9日には、親子ふれあいゲーム大会を行いました。

「がんばれー」「やったぁー」と元気な声が来女木公民館に響き渡り楽しい一日でした。

誇らしげに、優勝の〝せんべいメダル〟を胸にかざる保育園児。少し恥ずかしそうに掛けられた〝せんべいメダル〟を、すぐ外してしまう中学生。低学年の子に助けを求められ、一生懸命に答えている高学年の子どもたち。それぞれの成長をほほえましく、そして嬉しく感じる事のできる日となりました。

子ども会活動の目的の一環として、異なった年齢の子供たちのふれあいがあります。

これらの行事を通し、大きい子は小さい子の面倒を見る難しさを考え、小さい子はその姿を見ていろいろな事を学んでいく…お互いの人間関係を学び、今後の自分のやるべき役割を学ぶ大切な時間になっていることを、心から感じることのできる日でした。

平成20年度の来女木まこと子ども会の会員は、中学生12名、小学生22名の合計34名で活動しています。

これまでの行事として、『新1年生歓迎会』を5月に行い、かわいい新1年生を3名迎え、にぎやかなスタートをきり、8月には前述した『親子ふれあい大ゲーム大会』を行いました。

これからの行事としては、『町子連ソフトボール大会』への参加。（めざせ金メダル!?）、3月の『卒業生を送る会』があります。今後は、いつも支援をいただいている地域の皆様との、ふれあいの行事（特にお年寄りの方々と子どものふれあい）を考えていけたらと思います。

子ども達がいつも笑顔で過ごせる地域になるよう、育成会としても全力を尽くしがんばりたいと思います。今後とも、地域の皆さまにおかれましても、子ども会に対しあいかわらずのご支援、並びにご指導のほどよろしくお願いいたします。

原田子ども会

育成会長　小早川　章

地域の皆様には平素より原田子ども会活動に温かいご支援ご理解そしてお忙しい中、ご協力頂きまして誠にありがとうございます。

平成20年度の会員は、中学生25名、小学生46名の合計71名、育成会員40戸での活動になります。

今年度の活動内容は、8月3日（日）夏季研修として、みろくの里へ行き、親子の親睦、中学生から未就児までの子ども同士親同士の親睦を深め、楽しい1日を過ごしました。

8月30日（土）町子連ソフトボール大会に向けての練習で小・中学生が一致団結し、優勝を目指し頑張っています。

あと、「クリスマス会」「中学3年生を送る会」を予定しています。近年子どもの人数の減少の中、異年齢の子ども達が家庭では求められない様々な経験や人間関係を通じて、心豊かに成長してもらいたいと願っています。

日頃より登下校を見守って下さっている、地域の皆様や駐在所の黒澤さんのおかげもあり、子ども達も安心して安全に登下校できている事にも感謝しています。

これからも皆様の子ども達に対してのこれまで以上のご指導、ご支援を賜りますよう心よりお願い致します。

2008年度　来原地区コミュニティづくり連絡協議会役員名簿

2008年8月1日現在

	行政区名	推進委員	女性部連絡員		色別理事	グループ理事		顧問	
原田	高宮町すだれ	岩見千代子	藤原佳世子	米田　清子	赤2	来女木ひまわり会	児玉征之助	顧　問	秋田　雅朝
	高宮町切田	末田　詔	中村　月美		岩田　邦夫	〃	小田　洋介	〃	塚本　近
	高宮町深渡	新田　義明	新出　幸子	岩見　頼子	荒川　裕	〃	秋国　満	〃	山根　温子
	高宮町中原	小早川十一	上杉真由美		黄2	〃	山本　保	〃	平畝　力
	高宮町上沖城	小早川　章	中川アキコ	本多小夜子	平野　弘則	原田カラス会	上野　一彦	執行部	
	高宮町下沖城	有松　秀明	有松千代子	田中香代子	宮野　謙三	〃	津島　茂樹	会　長	平野　弘則
	高宮町上城	宮元　文昭	杉田　厚子	佐々木亜矢	白2	〃	本多　一雄	副会長	児玉征之助
	高宮町土居谷	上野　司	上野　祥子	遠野　昌枝	芦田　勝昭	〃	菅原　隆司	〃	児玉　成子
	高宮町宍戸城	巳岡　雅博	岡野　淑子	猪掛ツジエ	竹内　勇壮	来女木子ども会	高杉亜由美	総務部長	岩岡　凱士
	高宮町細河内	宮野　謙三	早川　光子	丸山智恵子	緑2	原田子ども会	小早川　章	〃 副部長	小丸　千春
	高宮町後岡城	菅原　正義	山手サカエ	菅原見千枝	宮元　文昭	来原小学校ＰＴＡ	今田　和哉	福祉厚生部長	川上　了弘
	高宮町日南側	倉谷　昌司	吉岡　孝子		上野　司	高宮中学校ＰＴＡ	猪掛　公詩	〃 副部長	新堂　優子
	高宮町東城	竹内　勇壮	竹内さゆり	松長真由美	茶2	民生委員協議会	川上　了弘	体育部長	秋国　満
	高宮町上仁王丸	塚本　近	久保田邦子		三戸　勇二	社会福祉協議会	河内　直美	〃 副部長	菅原　隆司
	高宮町山田	清水　成美			伊藤　良治	老人会	久保田慧壮	青少年育成部長	今田　和哉
	高宮町下仁王丸	山田　久司	新堂　優子		紫2	〃	高杉　卓造	〃 副部長	高杉亜由美
	高宮町柑原１	芦田　勝昭	芦田久美子		信藤　清	ＪＡ	竹内　勇壮	文化部長	上野　一彦
	高宮町柑原２	戸田　敏昭			児玉征之助	神楽団	吉岡　琢	〃 副部長	吉岡　琢
来女木	高宮町茂谷	児玉征之助	高杉　泰子	児玉　成子	女性(赤)2	〃	今田　和哉	環境保全部長	竹内　勇壮
	高宮町仲仙道	信藤　清	寺本　幸枝	秋田留美子	藤原佳世子	原田はやし田保存会	上野　一彦	〃 副部長	山手サカエ
	高宮町後迫	中村　輝之	讃岐　政子		中川アキコ	消防団	渡辺　正明	広報部長	倉谷　昭夫
	高宮町常広	上川　正義	上森百合恵	小田　鈴恵	女性(黄)2	〃	住吉　主税	〃 副部長	小笠原日丸
	高宮町宮迫	山口　節子	小丸　千春	坂谷　和子	丸山智恵子			部員	藤原佳世子
	高宮町向原	三戸　勇二	田中　幸子	朝原　典子	山手サカエ			〃	平野　弘則
	高宮町行田	南　忠信	沖田　静子		女性(白)2			〃	川森　博継
	高宮町来女木市	伊藤　良治	秋野　郁子	山口末子	新堂　優子			監事	伊藤　良治
合計	26集落				松長真由美			〃	津島　茂樹
		女性部	女性(紫)2	女性(茶)2	女性(緑)2			事務局	川森　博継
		吉岡佳代子	児玉　成子	小田鈴恵	田中香代子			〃 兼会計	岩見　孝志
		益田　美佳	寺本　幸枝	小丸千春	上野　祥子				

編集後記

▼広報くるはら第43号をお届けします。遅くなりましたがご愛読ください。

▼少し前の話になりますが、児玉前市長様から来原小の卒業式のご祝辞の中で来原小の歴史をお聞きしました。全部は書けませんが一部をお伝えしたいと思います。

▼81年前の昭和2年に来女木小と原田小が統合してこの地にできた。むかしここは、田んぼだらけで排水の悪い沼地だったが、約8反の敷地を村民のみんなが出て校地を造った。それぞれ土地所有者がおられたが、すべて寄付をされた。当時は農家の暮らしも楽ではなかったが、学校のことならということで寄付された。来原という地は、教育のことなら身を惜しまないという長い歴史があることを先輩から引き継いできた。

▼寄付者の名前を刻んだ石柱がむかし奉安殿のまわりに建立されていたが、終戦後（60年前）奉安殿をくずせということで、そのときに石柱がどこにいったか不明になっていたが、その後、小学校と体育館との間の水路の橋の一部なったりしていたが、そんな粗末なことをしてはいけんということで、橋になったり転がっていたものを拾い上げて、現在は職員室の前の植え込みの中に並べてある。

▼こういった歴史を児童のみならず来賓、保護者も忘れずに。学校ができて87年目だが、そういう歴史をもういっぺん思いおこして、100年たっても来原の教育熱心な物語を受け継いでもらいたいというお話をいただきました。

▼先日、環境整備の後、植込みの後ろの方でひっそりと建っている石柱を見ました。みなさんもぜひご覧くださいませ。

▼編集にご協力を頂きました方、ありがとうございました。

▼コ連協広報部では、地域の皆さんからのご意見や身近な情報、記事、短歌、写真等の投稿をお待ちしています。